

柔い土の床、野菜畑の中に、まる／＼と肥た裸の赤ちやんがニコ／＼して轉つてゐる繪を、どこかで見えた事がある、其の邊が明るい光で輝いて小鳥の歌が音楽のように聞える。私は私の小さい友達のを、ここにこうして離れて机の上で考へると、輝かしいあの繪が、現のようにまぼろしのよ

うに日のあたりに生きて来る。この壯健な赤ちやんをギリシヤのアポロの様にヰイナスのように強く美しく伸ばし育てるようになるのは、そして次代の日本を世界に輝すようにするのはお母様方！

——(昭和三年十月)——

東京女子高等師範學校の秋季大運動會

——明治神宮外苑競技場に於て——

十月二十二日の朝、氣づかされた前日、來の雨がからりとをさまつて、青天高く、一點の雲も見られぬ快晴、嬉しくも恵まれた天候に先づ意氣はあがる。

八時三十分、運動會開始された。

本校、附屬高女、附屬小學、附屬幼稚園の各部で、何れも運動慾を満足させ度いといふのである。フィールドで競技、或は體操がはじまると見るや、外のトラツクでは五十米、百米、或は四百米と、走騷して居る。廣い競技場が、すき間も絶え間もなく使はれて行く。

やがて九時三十分、幼稚園の「旗拾ひ競争」見るよりも自ら運動して見たの運動會である幼児達の番は來た。スタンド前のトラツクを五十米、決勝線のま近に

置いてある旗を目標して一生懸命驅けて來る。旗を手にして、ラストヘビーをかけ、最後の勝利を争ふのは大きい組、旗を手にするとそこから、嬉しうに横側に立つてゐられる先生に飛び付き來る。どのけい、旗を一本づゝ拾ひ得てよる。んだ幼児は嬉々と打ち振りつゝ、「旗行列」にと廣き芝生の中央に出場、かけく、水兵の遊戯をして、桃太郎をうたひながら三ツ巴を畫いて行進する可愛いらしさ。

暫くの後、又も出で、有らん限りの力をこめた紅白綱の引合、これは最後にして午前十一時半幼児は解散、父兄の手に渡された。

(きく子)

正午すぎ、開院宮春仁王殿下妃直子殿下、北白川宮美年子女王殿下、北白川宮下、北白川宮下、李王殿下、妃方子女王殿下、李德惠姫稟臨遊ばされ、一同の意氣はいやました、この頃、當日の見もの、呼び物は續いて、いよ／＼高調せううちにプロگرامは最後に近づき、本校、高女、小學校、帶を召された本校の先生方まで打ち交はされた「ゴザツケダンス」となる。夕陽はせまつた。感激に引き入れるやうな樂の音に合せて大集團は動く。しばし、場内聲もなく集團の威力が、莊重な氣に打たれる。

斯くで感激のさ中に會は閉じられたのであつた。この日各殿下の終まで御覽あらせられたことは、更に更にあつき感激であつた。